

# 北九港&空 NEWS

2021  
Vol.25



▽テーマ  
「北九州空港」と「新門司沖土砂処分場(Ⅱ期)」

▽ニュース  
北九州空港滑走路延長計画 PI活動

## ○コラム「重い飛行機がなぜ飛べる？」

翼の揚力が……って、難しい話は出来ませんが、感覚的な話です。

北九州空港に本拠を置くスターフライヤー社の運用するエアバスA320が全長約38m、全幅約34m、自重約41t※です。これを全長が30cmになるよう全体的に縮小したとすると、その自重は20g程度になります。84円の定形郵便で送れる重量が25gまでですから、これよりも軽いのです。プラモデルでも同じ大きさの飛行機を作ったらもっと重くなるでしょう。

飛行機って見かけによらず軽いというお話でした。(※飛行機の重量の定義には様々ありますが、ここでは乗員、乗客、貨物、燃料等を含まない飛行機そのものの重さで41tとしました。)

## イベント報告

### 出前講座

令和3年7月29日(木)、北九州市立年長者研修大学校 周防学舎の研修生26名を対象に、出前講座を行いました。北九州港の歴史と概要と題し、北九州港や関門航路の歴史、当事務所が行っている整備事業などについて紹介しました。当事務所のホームページにて、出前講座の申し込みを受け付けています。

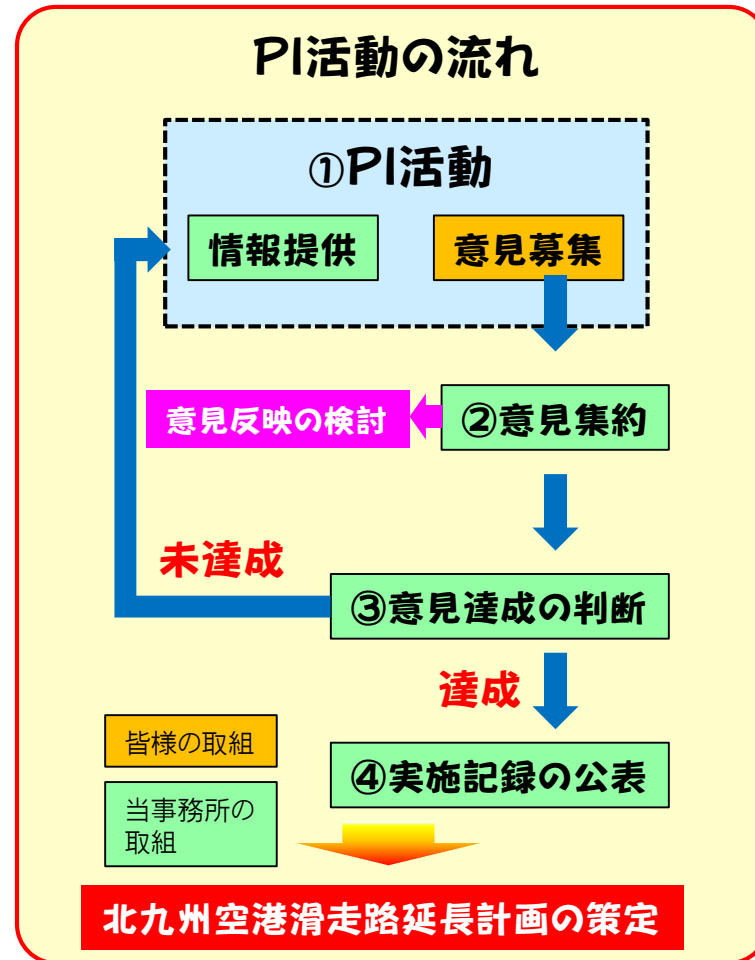


## ～北九州空港滑走路延長計画 PI活動～

### ○PI (パブリック・インボルブメント) とは

北九州空港の滑走路を3,000mへ延長する計画では、PIという手法を取り入れています。

PIとは「Public・Involvement」を略したもので、いわゆる住民参画のことで、住民の合意形成手続きの手法です。事業の計画などを策定する段階から情報を公表し、多くの意見を頂きながら計画を進めるもので、みなさまとの情報共有や合意形成を図ることを目的としています。



## 国土交通省 九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所

〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸1-4-40  
TEL(093)321-4631 FAX(093)322-5525  
Webアドレス <http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/kitakyusyu/>



九州地方整備局では、平成29年7月より、各施設を管理する事務所等でインフラカードを無料配布(全65種類)。各配布施設等に来所し希望すると1人1枚無料で入手できます。



# テーマ 「北九州港」と「新門司沖土砂処分場(Ⅱ期)」

## 1. 北九州空港

### ①空港の概要

延長2,500mの滑走路を有した北九州市と苅田町に跨がる海上空港で、九州で唯一24時間運用が可能となっています。高速道路インターチェンジやフェリー基地とも近く、陸・海・空の交通ネットワークの結節点として、旅客だけでなく貨物の取扱量が多い空港です。

現在、大型貨物機による長距離輸送を可能とするため、滑走路の3,000mへの延長が検討されています。

### ②事業の概要

北九州空港の設置・管理は大阪航空局が行っていますが、そのうち滑走路やエプロンなどの土木施設の整備は九州地方整備局が行っており、現在、次の事業を実施しています。

#### A. 滑走路端安全区域(RESA)の整備

航空機が離着陸時に滑走路をオーバーランしてしまった場合などに、航空機の損傷を軽減する区域(RESA)を整備しています。

#### B. 排水・越波対策

過去に、台風の高波による浸水で、空港を一時閉鎖する事態が生じたことから、全体的に排水工や護岸の整備を行っています。

#### C. 七管航空基地の整備

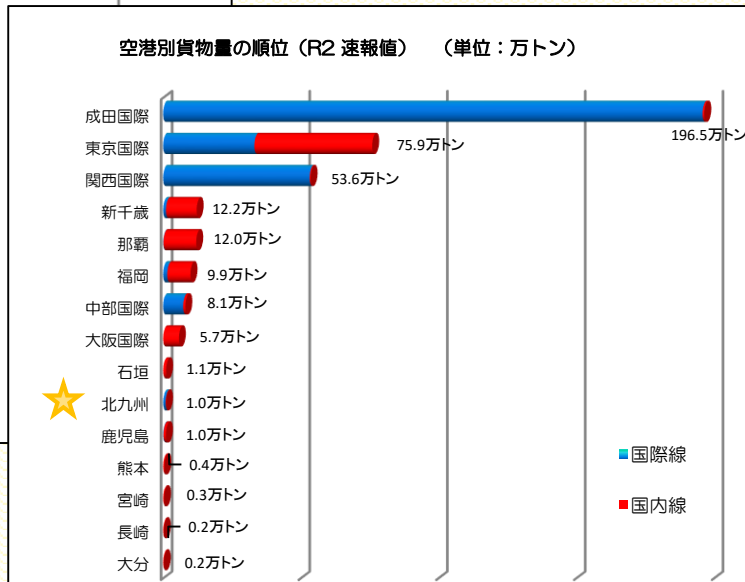
第七管区海上保安本部からの委任事業として、同北九州航空基地のエプロン整備を行っています。

### ③空港島整備の経緯

空港島は関門航路をはじめとする周辺航路の浚渫に伴って発生する土砂の処分場として埋立てられたもので、この土砂処分場を活用して空港が整備されました。この港湾と空港の整備事業の連携により、一から海上空港を整備するよりも建設費が安くなっています。



### 国内空港の乗降客と貨物量ランキング(R2速報値)



北九州空港は、旅客では九州管内第7位ですが貨物では同第2位です。24時間運用や地理的優位性と併せて、滑走路3,000m化による取扱量拡大が期待されます。

## 2. 新門司沖土砂処分場(Ⅱ期)

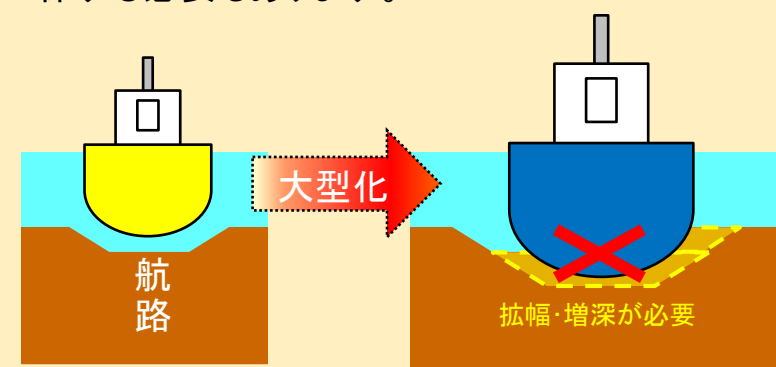
### ①土砂処分場の概要

処分場は関門航路、新門司航路、苅田航路の浚渫土砂の受け入れ先として整備されています。既に空港として整備されているⅠ期の埋立ては一部を除いて完了しており、残りも満杯が近づいています。このため新たな浚渫土砂の受け入れ先として空港島東岸にⅡ期の土砂処分場(約250ha)を整備しています。将来的には、空港関連用地や緑地などでの利用が期待されます。

前期と後期の2期に分けて整備していますが、現在は前期の東側と南側の護岸を整備しています。

### ②航路整備の必要性

近年は輸送コスト低減を目的とした船舶大型化が著しく、これに伴い航路も広く深くする必要があります。また潮流などの影響により航路が埋まる場所もあり、継続的に水深を確保する必要があります。



### ③ICTの活用

ICTとは「Information and Communication Technology」の略で、「情報通信技術」という意味です。

新門司沖土砂処分場(Ⅱ期)事業は、国土交通省が全国的に取り組むICTの大規模プロジェクトの一つに位置付けられており、積極的にICTを取り入れた事業を推進しています。